

公益社団法人 日本青年会議所	
四国地区 徳島ブロック協議会	
組織連携委員会 委員長 遠藤 圭介	
現 状 分 析	私たち J C は、自らを高め、地域とともに成長する志をもつ青年の集まりであり自発的に運動を行う組織であるべきだと考えます。しかし、2019年度徳島ブロック大会参加者を例に挙げると期首会員265名中、記念事業参加者は101名で参加率38%、記念式典参加者は、112名で参加率42%と参加率は低く、J C 運動に価値を見出せていないことにより自発的に参加できていないメンバーが多いのが現状です。
目指すべき状態	<ul style="list-style-type: none"> <li>■メンバー一人ひとりが組織の運動を理解し、自分たちの運動に価値を見出すことにより、組織における自らの立場を全うできる状態。</li> <li>■組織内で責任を背負える人財を育てることにより、自分たちの住み暮らすまちの中でも責任を背負えるリーダーを輩出し続けることができる状態。</li> <li>■過去の組織運営に囚われず、限られた時間の中で充実したJ C 運動ができる状態。</li> <li>■行政、各 L O M 等と連携して地域全体が S D G s 達成への意識が向上している状態。</li> </ul>
連 携 概 要	<ul style="list-style-type: none"> <li>■地域社会で S D G s を達成していくための事業の実施 国内における S D G s の認知度は27%程度であり、普及に向けた取り組みを引き続き行っていく必要があります。徳島県全体に S D G s を推進し、運動・事業を構築し実施していくことによって、地域社会により良い影響を与えるようになります。また、各 L O M が地域社会における一番の S D G s 推進団体になることで、J C の地域社会における存在価値を高めます。</li> <li>■社会グループ S D G s 推進会議との連携を推進 2019年に青年会議所は、日本一の S D G s 推進団体になると宣言し普及に向けた取り組みを行っています。しかし、その中で、中小企業において自社の事業と S D G s との紐づけをしたものの、形だけの取り組みにとどまってしまうことが課題となっています。社会問題の解決に直結する具体的な中小企業を増加させ、支援する環境整備を行います。</li> <li>■徳島ブロック大会の実施 メンバー一人ひとりに組織の運動を理解していただきます。自分たちの運動に価値を見出し、自信をもって語れるようになることで、一人ひとりの自信に繋がり、組織全体の自信と評価に繋げていきます。また、メンバー間で同じ目的をもっていることを実感し、交流を行い成長することで組織力の強化を図ります。</li> </ul>
S D G s	【4、5、8、9、11、17】
政 策 手 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>■地域社会で S D G s を達成していくための事業の実施 地域社会に S D G s を広めるために徳島ブロックが中心となり、徳島ブロック大会にて S D G s 体験事業を構築、実施します。行政、各 L O M と連携して事業を行い、自分たちの地域に持って帰り、ブラッシュアップしていただくことにより、メンバーはもとより地域社会が一丸となって S D G s 達成への意識が向上するよう促します。</li> <li>■社会グループ S D G s 推進会議との連携を推進 ブロック協議会のカウンターパートである徳島県に対し、金融支援における政策を策定し、提言・実行を S D G s 推進会議と連携して行っていきます。社会問題の解決に直結する事業を展開する中小企業の増加を推進することにより、中小企業が S D G s 推進の中核となり持続可能な社会が形成されることを目指します。</li> <li>■徳島ブロック大会の実施 これからの時代、J C が価値を生み出していくためには、限られた時間の中で充実したJ C 運動ができる組織に変わっていかねばなりません。そのために、徳島ブロック大会において全ての委員会が一同に事業を行うことにより、普段参加していないメンバーにも価値を見出してもらい参加していただくことで全てのメンバーに対して意識変革を促し組織力の強化を促します。</li> </ul>
パートナー	徳島県（政策協力） 市町村（政策協力） 徳島ブロック内 J C （政策協力・実施支援） （公社）日本青年会議所社会グループ S D G s 推進会議（連携）